

# 栃の木からの手紙

2023年 葉月 8月号



- 2日： 満月 旧 6月 16日  
6日： 広島原爆の日  
8日： 立秋  
9日： 長崎原爆の日  
12日： 御巢鷹山慰霊の日（日航ジャンボ機墜落）  
15日： 平和祈念の日  
16日： 新月 旧 7月 1日  
23日： 処暑  
31日： 満月 旧 7月 16日  
（今月は満月が2回あります）

例年では、秋播き小麦の収穫で忙しい時期。今年は、7月21日から8軒の集団の収穫作業を始め、24日には終了しています。例年より10日程早く作業期間も短い状況でした。

そんな天候の中、芋の疫病は大暑前には確認され雑草が元気に育っています。

雑草対策として、芋の植付け後の機械除草、培土作業等を雑草の生え具合に合わせて数回行っていますが大暑の頃には草畑。

一か月近く？草取りに通いうんざりしている人に「ここはこういう畑だからこのままで良い。」と私は言う。一般の畑でこの状態であればそれは異常。しかも、取った雑草を全て袋に入れて運び出している。「取った雑草が全て再生するわけではないから畝間に置いておいたらいいよ。」の結果写真が右。この芋畑では、芋の茎が無くなったら茎葉チョッパーで丸坊主にする。後10日前後の話。その為にわざわざ苦労している？

さて、撮った雑草をどの様に置くか？草取りに久し振りに入った私は、草の置き方の状態を見て左下写真の様にとった草を芋の畝の上に浮かせるように芋の株間を塞ぐ様に草マルチをイメージして草取りを進めました。

大変な作業であることはわかっているから、ある程度のところで妥協するか作業負担の少ない方法に適せん変えてゆくかしないと無駄に体を衰えさせるだけ。先月届いた「MOA自然農法 No.250」の記事「知識は種、感性は土壌」静岡大学名誉教授 中井弘和 を紹介します。

# 知識は種、感性は土壌

静岡大学名誉教授

中井弘和

チャットGPT（対話型AI）が今大きな話題を呼んでいる。報告書や文章など本来人が自らの知能や創造性を駆使して果たすべきことをAI（人工知能）が肩代わりしてくれるということである。AIを用いたスマート農業が喧伝され始めたのも比較的最近のことである。マスメディアもこれらAI



大仁農場・稲育種圃場の田植え始まる（2023年5月24日、田淵浩康撮影）

技術の進化の様子を賑々しく報道してわれわれを驚かせる。わたしは、これらAI技術が社会を席卷していく様に戸惑いながら、「知識は種、感性は土壌」という言葉を思い起こしている（レイチェル・カーソン、「センス・オブ・ワングー」、1965）。

「知識という種は、感性という土壌があつて実を結ぶ」というのがその言葉の意味である。もちろん、わたしたちが育成してきた稲の種（品種）は自然農法という豊かな土壌があつて初めて豊かな実を結ぶことができる。ここで問われるのは、チャットGPTやスマート農業が人類の未来に幸せを与えることができるかどうかということである。いずれも極めて便利だという印象はある。人が自らの能力や身体を使わなくとも文章が書け、作物を作ることができたりする。かつて人は生きる糧を得るために、例えば種を播くため

に土に穴を掘る木の棒という道具をつくり手足として使用することを覚えたり、それがやがて鋤となり、耕運機となり、トラクターとなって進化していくことになった。その行き着いた先がAIなどの先端技術と言えるだろう。人の手足であつた道具が、独り歩きをし、やがて人を支配するようになる。

技術の進化の過程は、人が土や自然から遠ざかっていくそれと一致する。それは、また、人の感性の喪失と一致していくのである。スマート農業のある一場面を想起してみよう。ドローンや衛星から圃場の画像を撮影し、栄養や病虫害の状況を分析して、それに沿ってドローンから農薬や（化学）肥料を散布する。作物の植え付けや収穫には自動走行のトラクターなどが使用される。農民の高齢化、農業後継者の不足、大規模企業農業への志向からこの農業の形を首肯する向きもあろう。

しかし、その世界には人が土や作物とじかに接してそれらの顔色を思いやる心情はない。天気の状態を観察し、作物の生育を気に掛ける心も生じない。収穫の感謝やさらに家族が食べていける豊作を願う神への祈りもなくなっていく。

度々書いてきたことであるが、世界は、今、未曾有の気候変動による自然災害、コロナパンデミックさらにロシアのウクライナ侵攻などによる破局的な生命の危機に瀕している。その元凶が人の精神あるいは感性の退化にあるといつて大きな間違いはないであろう。そうであるならば、今、最もわれわれ人類に求められるのは人としての感性を蘇生させることである。今後、AI技術が究極まで進化したとしても、電気というエネルギーが無ければその技術は無に帰することは明らかである。さらに、神と表現してもよい自然の大きい意志に沿う感性いわば霊性とそれらAI技術は決して関わることはできない。ひるがえって、自然農法は人の霊性を取り戻し、新たないのちの時代を創る道でもあるだろうとわたしは思っている。